

## 行政視察 横田 誠 議員

日時：平成30年7月30日(月)～8月1日(水)

場所：香川県三木町、岡山県岡山市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港国内線ターミナル駅	鉄道	片道	111.7	1,630	1,030			2,660
羽田空港～高松空港	飛行機	片道	711.0			8,495		8,495
高松空港～空港通り一宮前	バス	片道	8.0				450	450
空港通り駅～学園通り駅	鉄道	片道	18.8	500				500
学園通り駅～高松築港駅	鉄道	片道	13.2	410				410
高松駅～岡山駅	鉄道	往復	71.8	1,510				1,510
岡山駅前駅～大雲寺前駅	鉄道	往復	3.2	280				280
岡山駅前～岡山空港	バス	片道	17.0				760	760
岡山空港～羽田空港	飛行機	片道	685.0			8,495		8,495
羽田空港国内線ターミナル駅～佐野駅	鉄道	片道	111.7	1,630	820			2,450
								0
計				5,960	1,850	16,990	1,210	26,010

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	26,010 円
(うち航空運賃)	16,990 円)
計	59,010 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 恩田 俊彦



領 収 証

新風

様 No. \_\_\_\_\_

★ ￥ 4,320-

但 御品代として

30年 7 月 26 日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等( %)

収 入  
印 紙

コクヨ ウケ-1097

佐野市金井上町251-9  
佐野市観光物産会館

$$4,320円 \div 2日分 = 2,160円 (1日分)$$

$$1日目 2,160円 \div 4人 = 540円$$

$$2日目 2,160円 \div 5人 = 432円$$

$$540 + 432 = 972円 (1人分)$$

平成30年8月3日

佐野市議会議長 井川勝彦様

新風 田所良夫

新風並びに早川貴光議員視察報告書

1期日 平成30年7月30日(月)

2視察地及び視察事項

香川県三木町 人口27,487人 面積75.78km<sup>2</sup> 議員定数16人

- (1) ふるさと納税について
- (2) ふるさと住民票について

3 派遣委員 春山敏明 田所良夫 横田 誠

視察内容 7月30日午後2時より開会 説明者 町長 筒井敏行 政策課長 茂中直樹

(1) ふるさと納税について説明を受けました、当初はふるさと納税額も少額でありましたが人口27,487人一般会計歳入合計およそ97億の財政の町で寄付額は下記の通りです。

単位：円

	寄付件数	寄付金額
平成28年度	38,399	710,912,605
平成29年度	75,112	1,172,246,700

上記のように短期間で驚異的拡大につなげることに成功した三木町の行政手腕と、その理由経過をお聞きしました。

結論的には上司の強力なリーダーシップと戦略的なPR活動と、人的関わりの中でモチベーションを高めた結果との事、さらに返礼品については地元産の品物に磨きをかけ期待感と魅力を持たせ寄付者のモチベーションも高めた等々の説明を受けました。

(2) ふるさと住民票については、三木町で生まれながらも離れた都市で暮らす人や、町外から通学通勤している人、ふるさと納税し、絆をさらに深めたいそれを形にしたものが「ふるさと住民票」制度とのこと、次に三木町版「ふるさと住民票」の仕組みとメリットとして、

- ◆ 三木町の出身者、三木町へ通勤通学で通う人、三木町へふるさと納税された町外の方などが主な対象で、それ以外でも「三木町を知りたい」「三木町を応援したい」という方ならだれでも参加できます。
- ◆ ふるさと住民票への申し込みはインターネット経由で簡単に行うことができ、申し込み後に、ふるさと住民票としてふるさと住民カードが発行されます。
- ◆ 三木町とのつながりをより密なものとしていくため、登録者(ふるさと住民)へ6つの特典・サービスを用意。
- \* 三木町に関する情報の提供(三木町ふるさと会報誌の発行(年2回))
- \* ふるさと住民番号で年2回(三木のええもん)がもらえるキャンペーン

- \* 役場職員が企画・案内する（三木のおもしろ体験）ツアー
- \* メタ・ライブラリー（三木町内図書館）の利用
- \* 町長・副町長とのお食事交流会
- \* 各種計画等へのパブリックコメント

これらの特典・サービスを通じて、ふるさと住民が三木町の魅力を知るとともに交流が促進され（つながりが深まり）、ひいては地域の元気につながる。

所感 ふるさと納税については、短期間で急拡大の寄付金がいただけた経緯についてお聞きしましたが、そうなる背景理由努力もあつてのことで単に偶然ラッキー恵まれたという事よりは、そうなるべき理念の構築とそれを共有した職員一同の努力のたまものと理解いたしました。さらにふるさと住民票については、三木町に何らかのご縁のある方は、その縁を尊重し絆をつなぎ留めつつやがては移住定住三木町活性化につなげていこうとする強い郷土愛を感じました今後の我が佐野市の今後の歩に大きな学びとなりました。

閉会 午後4時07分

平成 30 年 8 月 8 日(水)

## 佐野市議会 新風 岡山市行政視察報告

報告書作成 春山敏明

- 1, 視察先 岡山県岡山市市民協働局 市民協働企画総務課
- 2, 視察目的 岡山市電子町内会について
- 3, 日時 平成 30 年 7 月 31 日(火) 午後 1 時 30 分
- 4, 出席者 春山敏明 田所良夫 横田 誠
- 5, 説明員 市民協働企画総務課 課長 猪早倫子 様  
" 副主査 吉家祥子 様  
" 嘱託員 片山雅之 様

岡山県県庁所在地の人口 719,474 人の岡山市へ、全国でも数少ない「電子町内会」活動の支援事業状況について視察を行った。人口は、本市の 6 倍近く、町内会の数は 10 倍を超え、住民の町内会への加入率は 80.9%。現在、町内会会員への広報活動は、本市と同様に回覧板で行っている。

電子町内会の始まりは、平成 13 年 11 月、庁内情報政策課と開発業者による開発メンバーが集まり「モデル電子町内会」を募集し、1 連合町内会と 6 単位町内会の計 7 町内会により、連携を図りながらサイト作成、システム開発を行う。更に、担当職員を割り当て、独自でサイト作成が困難な町内会へはフォローを行う。

平成 14 年 3 月 26 日モデル町会のサイトが正式公開され運用が始まる。予算は、平成 13 年度電子町内会設立時に経済産業省の「IT 装備都市事業」に採択された時に開発した電子コミュニケーション用システムを電子町内会用に流用等、国の補助を得る。

平成 16 年 1 月からは、一部システムの改修時に、総務省「eまちづくり」交付金 2,000 万円の一部を使ってシステム開発を行う。このように 17 年前から職員と開発業者の ITC 推進開発メンバーとで研究検討をし、国の「まちづくり」交付金を活用して進められた事業と理解した。

岡山市の電子町内会の特徴は、サイトの二本立てになっておりその一つが、外向けの PR のための「町内会ウェブサイト」で、町内会だけではなく世界中

の人々が閲覧できるウェブサイト。町内会の紹介、歴史や自然、特産物などの地域自慢。専門部や安全・安心・環境など各種団体の紹介など。二つ目の「内向け」の「会員専用サイト」は、会員交流のためのもので、会員個々に割り当てられた ID・パスワードが必要。町内の会員にメール一斉配信を行う事ができるというものでした。

岡山市の町内会数は、本市の 10 倍を超え 1,716 町内会であり、電子町内会として公開をしている町内会の数は 85 の約 5 %との説明でした。そういったことで課題としては、

①「認知度が低いことであり、『パソコン・コンピュータ』と言われると、それだけで拒否反応を示される方が少なくない。特に、年齢が高くなるとその傾向にある」こと。

②「『作業が難しそう』『パソコンが苦手』などの理由より、参加町内会の伸び悩み」といったことより、普及啓発活動や公民館、ふれあいセンター等を利用して講習会などを行って若い人への啓発を検討している。

③電子町内会立ち上げで、作業された方がいなくなると滞ってしまうことが見受けられ、人材の育成のため定期的な研修会の開催や、イベント、コンテストを行う事でモチベーションの維持を図っている。「電子町内会が活発に活動していることがウェブ担当者 1 人による場合、継続が難しくなる。よって後継者の育成が大切である」とのことでした。複数の人数で運営できるシステムを作るために研修・フォローアップが大切である等々の説明を受けた。

利用者の会員同士のサイト内での「情報発信と書き込み」では、「電子掲示板」の良い活用事例を紹介して頂きましたが、現在は会員専用ページはメール一斉配信機能に改修したそうで、facebook グループ等の SNS に変更したそうです。

公開町内会の費用負担と市の予算においては、インターネット接続通信料他、パソコン機器類は町内会負担。市の予算としては、平成 28 年度 10 月にシステムのリニューアルを行った際に、システムの構築に約 700 万円。メンテナンス費用としては、年間 600 万円が掛かったそうです。

電子町内会立ち上げにおいては、同時に従来の回覧板による広報方法も継続しているそうですが、様々な課題問題を一つ一つ解決整理して、いずれは電子町内会時代の到来を予感した視察でした。